

東京で「おきなわ和牛」枝肉展示即売会 生産振興とブランド確立目指して —JAおきなわと(株)ミートコンパニオンが共催—

沖縄県農業協同組合（JAおきなわ）と(株)ミートコンパニオンは、2月25日、埼玉県和光市にある食肉センター・(株)アグリスワンで第5回「おきなわ和牛」枝肉展示即売会を開催した。生産者、JA、流通業者が一体となって首都圏で「おきなわ和牛」の認知度を高め、一層の生産振興を図っていこうというのが同即売会の狙い。

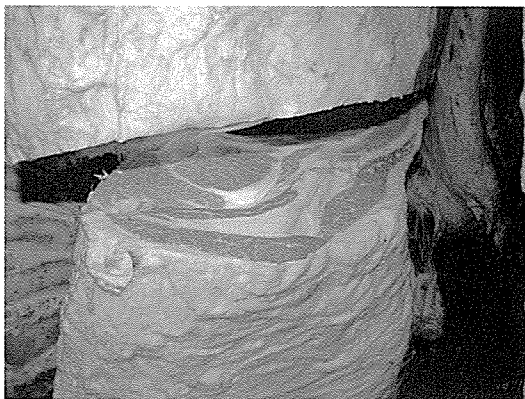
5回目となる今回は卸売業者19社・30人が参加して行われ、値札ちぎり方式により出品牛48頭が完売された。最優秀賞はJA八重山肥育センターで生産された「石垣牛」の去勢（格付けA5）で、1kg当たり3200円、(株)ハヤオが購買。優秀賞はJA宜野座肥育センターとJA八重山肥育センターの枝肉で(株)西島畜産、(株)ニイチクがそれぞれ購買した。

「おきなわ和牛」は、沖縄県内の57農協と経済連が統合し、実質的に統一JAがスタートしたのを機に、平成17年に旧経済連の「琉牛王」などを整理して誕生した統一ブランド牛。現在、7戸の農家とJAおきなわが運営する7ヵ所の肥育センターで2800頭が飼養されており、年間出荷は1700頭。これに加えて八重山郡内で育てられている「おきなわ和牛」が地域団体商標を取得した「石垣牛」として流通しており、こちらの年間出荷は700頭の実績という。

沖縄県の肉用牛経営は飼養戸数3160戸、全飼養頭数8万3500頭。このうち9割が繁殖牛と子牛で、肥育牛は残り1割の6500頭ほどだが、肥育を含めた一貫経営が増加しつつあるという。首都圏向けの出荷は平成18年度179頭だったが、その後順調に拡大し、22年度385頭、23年度は400頭台に乗せている。現在、フェリーとトラックによる生体輸送だが、沖縄県内、特に石垣市で計画されている食肉センターが整備され、部分肉での出荷が可能になれば、さらに首都圏へのお荷が増えそうだ。



48頭の出品、卸売業者30人が参加して行われた「おきなわ和牛」枝肉展示即売会



最優秀賞のJA八重山肥育センター生産の「石垣牛」のロース断面

当日は、現地からJAおきなわの安次富均常務理事、宮城直畜産部長、石垣牛肥育部会の仲大盛吉幸部会長らが駆けつけ、「おきなわ和牛」の生産振興の様子や肉質の特性をアピールしていた。

これに呼応してミートコンパニオンの阿部昌史社長は「価格が安いことで牛肉が売れる風潮に虚しさを感じる。国産牛肉は食べておいしいと感動することが必要だ。その点、おきなわ和牛は食べておいしい肉づくりを行おうという暑い熱意を感じる。われわれもこの思いに共感しており、おきなわ和牛がブランドとして定着するよう支援していきたい」ととエールを送った。